

平成17年9月30日

サキグロタマツメタの卵囊に関する情報

## 『サキグロの産卵始まる』

水産研究開発センター

仙台地方振興事務所水産漁港部

今年は水温が昨年より1～2℃高めで経過し、サクグロタマツメタの産卵も遅れておりましたが、本日、東名の潮干狩り場で産卵された卵囊が発見されましたのでお知らせします。卵囊内はどれもまだ、発生が進んでいない受精卵(胚)で幼生はまだ見られないことから、ここ数日以内に産み付けられたものと思われる。

春から夏にかけて本種の卵囊とよく似た在来種のツメタガイの卵囊が見つかりますが、サキグロの卵囊の表面は蜂の巣のように凸凹しております。詳しい見分け方は水産研究開発センターホームページの「サキグロタマツメタに関する情報」に解説してありますので参考にして下さい。

なお、今後、産卵は続くと思いますので、10月中旬までには駆除をするようにして下さい。日中に干潟が干出しない場合でも、胴長を着用すれば駆除できますし、小型の船上からも玉網ですくえますので時機を逸さないよう注意して下さい。卵囊1個からは数百から数千個の稚貝が孵出し、直後からアサリの稚貝を捕食します。



▲ 9月30日10時30分 東名潮干狩り場  
小型船より採捕(10分間)  
直径63～106mm